

短 報

学士編入統合カリキュラム（基礎看護学）の挑戦 ～ヘルスアセスメントの枠組みと事例を軸とした再統合～

縄 秀志 加藤木真史 佐居 由美 三浦友里子
鈴木 彩加 田中 加苗 樋勝 彩子 小布施未桂

Challenges of the Integrated Curriculum for the Accelerated Bachelor of Science in Nursing Program (Fundamental Nursing): Re-integration of Framework of Health Assessment and Case-based

Hideshi NAWA Masashi KATO GI Yumi SAKYO Yuriko MIURA
Ayaka SUZUKI Kanae TANAKA Ayako HIKATSU Mika OBUSE

〔Abstract〕

The Accelerated Bachelor of Science in Nursing (ABSN) Program was introduced in 2017. In the first year, the fundamental nursing curriculum consisted of type-1 integrated subjects (Anatomy and Physiology of the Human Body, Anatomy and Physiology of the Human Body: Practicum, and Health Assessment), type-2 integrated subjects (Fundamentals of People-Centered Nursing Care (PCCN), Methodology of Nursing, Basic Nursing Skills I and II, Practicum: Communication in Nursing, and Practicum: Basic Nursing Skills), and Practicum: Methodology of Nursing (Skills and Processes). In the students' evaluation of the lectures in 2017, they pointed out that it was difficult to concentrate on learning PCCN and Methodology of Nursing in a short time. Accordingly, in 2018, PCCN was incorporated as a joint course with undergraduate students, spread across the first semester.

However, in the students' evaluation in 2018, they noted that "learning nursing methodologies without imagining the overall nursing practice makes it unclear what we are aiming for, and we do not deepen our learning". Accordingly, in 2019, further revision of the curriculum was implemented, and the re-integrated curriculum was rebuilt.

The special features of the newly re-integrated curriculum are as follows: (1) creating a learning foundation in which an impression of the nursing practice can be grasped; (2) re-integration of the subjects of Anatomy and Physiology of the Human Body, Anatomy and Physiology of the Human Body: Practicum, Health Assessment, Basic Nursing Skills I, and Methodology of Nursing; and (3) developing the ability to assess the subject as a whole focusing on Human Life and to practice nursing. Together, these will nurture the nursing development ability of nursing students.

〔Key words〕 The Accelerated Bachelor of Science in Nursing (ABSN) Program,
re-integrated curriculum, framework of health assessment, nursing competency,
Fundamental Nursing

〔要 旨〕

2017年度より、第3年次学士編入制度を開始した。初年度の基礎看護学のカリキュラムは、統合科目①

は形態機能学、形態機能学演習、ヘルスアセスメント方法論で構成し、統合科目②はPCCN (People-Centered Care Nursing) 論、看護展開論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーション実習、基礎看護技術実習で構成し、看護展開論実習に繋げる構成であった。

2017年度の学生の授業評価では、PCCN 論と看護展開論を短期間に集中して学ぶことの困難さが指摘された。そこで、2018年度からPCCN 論は、4年制コースの学生と合同授業とし、前期の全期間を使うことにした。

しかし、2018年度の学生の授業評価では、「看護実践をイメージできないままに、看護の方法論を学ぶことは、何をを目指して学んでいるのかが不明瞭で、学びが深まらない」ことが指摘された。そこで、2019年度には、更なるカリキュラム改善が必要となったため、再統合カリキュラムを再構築した。

再統合カリキュラムの特徴は、①看護実践をイメージし学びの土壌を創る、②形態機能学・形態機能学演習・ヘルスアセスメント方法論・看護展開論・基礎看護技術論Ⅰの再統合、③全人的に対象をアセスメントし、看護を展開する力を創ることである。

〔キーワード〕 学士編入教育プログラム、再統合カリキュラム、ヘルスアセスメントの枠組み、看護実践力、基礎看護学

I. はじめに

2017年度より、聖路加国際大学は、看護学以外の学士号を取得した者を対象とした第3年次学士編入制度を開始し、2019年度で3年目になる。

4年制コースの学生は、基礎看護学・看護技術学領域が担当する10科目19単位を1年前期から2年後期までの2年間かけて学ぶが、3年次学士編入コースの学生は3年次前期の約4か月間（4－8月上旬）で学ぶ必要がある。そのために、初年度は、形態機能学（3単位）、ヘルスアセスメント方法論（2単位）、形態機能学演習（2単位）の3科目7単位を統合科目①とし、People-Centered Care Nursing (PCCN) 論（3単位）、看護展開論（2単位）、基礎看護技術論Ⅰ（2単位）、基礎看護技術論Ⅱ（1単位）、コミュニケーション実習（1単位）、基礎看護技術実習（1単位）の6科目10単位を統合科目②とし、最後に看護展開論実習（2単位）を実施するカリキュラムを導入した^{1, 2)}。

統合科目①は3科目の内容も統合され、テーマごとに展開する工夫がなされていたが、統合科目②は、PCCN 論の内容を4月の1か月間で学んだ後に、看護展開論を6月中旬の4日間で学び、次に基礎看護技術論Ⅰを約2週間で学び、最後に基礎看護技術論Ⅱを約1週間で学ぶ各科目集中型の科目配置であった。そのため、2017年度の学生の授業評価からPCCN 論と看護展開論を短期間に連続して学ぶことの困難さが明らかになった。

そこで、2018年度からは、PCCN 論は、4年制コースの学生と合同授業とし、前期の全期間を使って学ぶことにした。また、看護展開論と基礎看護技術論Ⅰの日常生活援助技術は、ともに病者をみるためのアセスメントの枠組み（表1）を学ぶヘルスアセスメント方法論と関連

が強いことから、統合科目①の形態機能学、形態機能学演習、ヘルスアセスメント方法論と統合科目②の看護展開論、基礎看護技術論Ⅰを再統合したカリキュラムに変更した。

しかし、PCCN 論を前期の通年科目にした結果、2018年の学生からの「看護実践をイメージできないままに、看護の方法論を学ぶことは、何をを目指して学んでいるのかが不明瞭で、学びが深まらない」という授業評価のコメントや看護展開論の理解が難しいとのコメントがあり、2019年度には、更なる授業改善が必要となった。

したがって本稿では、再統合したカリキュラムの特徴と概要を紹介する。

II. 看護実践をイメージし学びの土壌を創る

4か月間の学びの目標を明確化するために、授業開始2コマの授業を、〈看護実践の成り立ちと目指すもの〉、および〈これからの学びがどのように関連しているのか〉を理解できる内容にした。具体的には、脳梗塞患者の事例の食事場面を使って、病者に関心を向け築く援助関係とケアリングの概念、病者の思い・欲求を知ること、「その人らしく生きる」を捉え、ケアの視点について考え、看護実践の基盤となるPeople-Centered Care およびこれから学ぶ科目の関連性について講義とグループワークで展開した。

続けて、3コマの授業は、〈看護過程の全体像と各ステップ〉を理解し、アセスメント／関連図と看護問題の同定の実際を理解するために事例を用いたミニ演習を取り入れた。更に、1コマの授業で〈看護技術の安全・安楽・自立〉を理解する内容とした。

これらの授業を通して、以降の病者をみるためのアセ

表1 病者をみるためのアセスメントの枠組み

大項目		中項目
1	生活の基盤となる生命活動	バイタルサイン 流通機構 ①末梢循環 ②心臓
2	痛みはあるか、 つらいところはどこか	身体的苦痛 精神的苦痛 社会的苦痛
3	今日一日の生活は一人 でできるのか・そのことをどう 感じているのか	息をする 呼吸状態 気道 胸郭・肺 ガス交換
		コミュニケーション 認知機能 見る 聞く 話す 他者との関わり
		からだを動かす 体位の保持 移乗・移動
		食べる 食事動作 咀嚼・味わう 嚥下 栄養状態（消化と吸収）
		トイレに行く 尿の生成（腎機能） 尿の排泄 便の生成（消化管機能） 便の排泄 排泄動作
		きれいにする 清潔動作 皮膚・粘膜
		眠る／休む 睡眠と覚醒 日中の活動
4	安全か	療養環境 危険回避に対する認識・行動
5	1日をどう豊かに過ごすのか	今の病気や生活への思い 1日の過ごし方 余暇活動
6	これまでどう過ごしていたか	健康管理行動 生活パターン・生活習慣 社会的状況 信念・価値観
7	どこに帰るのか	今後の生活への思い 退院後の療養生活 サポート状況

メントの枠組みの項目に沿った各論（単元）を学ぶための土壌を創る工夫をした。

Ⅲ. 形態機能学・形態機能学演習・ヘルスアセスメント方法論・看護展開論・基礎看護技術論Ⅰの再統合

再統合の特徴は、3つある。1点目は、病者をみるためのアセスメントの枠組みの項目毎に5科目（形態機能学、形態機能学演習、ヘルスアセスメント方法論、看護展開論、基礎看護技術論Ⅰ）の知識を統合できるように工夫した点である。

2点目は、看護実践のリアリティのある学びを狙い、模擬患者とのかかわりを通してアセスメント方法を学ぶ機会を3回導入した点である。

3点目は、アクティブ・ラーニングの手法を用いて、グループワーク・グループ演習・グループ発表をすべての単元で用いている点である（表2）。

1. 生活の基盤となる生命活動

〈生きていること〉では、内部環境の恒常性と生活行動の関係、バイタルサインの観察とアセスメントについて学ぶ内容とした。バイタルサインの観察技術については、技術の習得と確認を目的とした実技試験を5月中旬に実施した。

〈調節機構〉では、内部環境の恒常性を担う「神経性調節」と「液性調節」の仕組み、ストレス反応について学ぶ内容とした。

〈流通機構〉では、生命活動に重要な循環器系の構造と機能、そのアセスメント方法を学ぶ内容とした。ヘルスアセスメント演習では模擬患者への問診、フィジカルイグザミネーションを通して、看護実践のリアリティのある学びを狙った。

2. 1日の生活ができるか

この項目は、〈からだを動かす〉〈食べる〉〈コミュニケーション〉〈息をする〉〈トイレに行く〉〈きれいにする〉〈眠る〉の各単元で構成されている。

〈からだを動かす〉〈食べる〉〈息をする〉は、身体の構造と機能の知識を学んだうえで、アセスメントの方法と演習を実施し、事例を用いてアセスメント・関連図・看護問題の同定をグループワークで学ぶ内容とした。

具体的には、表2の単元〈からだを動かす〉に示すように、右被殻出血の左片麻痺患者を理解するために、「からだを動かす」ための身体の構造と機能、アセスメント方法を学び、患者の左片麻痺の症状を理解し、そのことが生活行動にどのように影響するのかを考え、アセスメントや関連図を書き、「自力では体位変換・体位保持・立位保持・車いす移乗が困難である」等の看護問題を同定し、体位変換・体位保持・車いす移乗の看護技術を学ぶのである。

表2 再統合したカリキュラムの概要

単 元	事例の概要	科 目	内 容	コマ数
生きていること	事例なし	統合科目①	・恒常性の維持と生活行動 ・バイタルサインズのアセスメント	5
	下痢が続く脱水にある80歳代の女性	統合科目①	・体液・電解質の調節とアセスメント	2
調節機構	転職後、胃痛が出現し上部消化管内視鏡検査を受ける40歳代の男性	統合科目①	・調節機構と生体反応としてのストレス反応	2
からだを動かす	右被殻出血による左片麻痺でリハビリテーション中の50歳代男性	統合科目①	・〈からだを動かす〉ための身体の構造と機能、アセスメント方法	5
		統合科目②：看護展開論	・〈からだを動かす〉のアセスメント／関連図と看護問題の同定	2
		統合科目②：基礎看護技術論Ⅰ	・〈からだを動かす〉の看護技術 体位変換／体位保持、車いす移動 ボディメカニクス、ノーリフト技術	3
食べる	食事でむせ込みがある70歳代の女性	統合科目①	・〈食べる〉ための身体の構造と機能、アセスメント方法 ・模擬患者を活用したアセスメントの実際	11
		統合科目②：看護展開論	・〈食べる〉のアセスメント／関連図と看護問題の同定	2
		統合科目②：基礎看護技術論Ⅰ	・〈食べる〉の看護技術 食事援助／口腔ケア、栄養療法	3
コミュニケーション	右眼の視力低下がある70歳代女性 ほか	統合科目①	・〈コミュニケーション〉のための構造と機能、アセスメント方法	8
息をする	肺気腫、肺炎で日常生活動作時に呼吸苦が出る70歳代男性	統合科目①	・〈息をする〉ための身体の構造と機能、アセスメント方法、 ・模擬患者を活用したアセスメントの実際	9
		統合科目②：看護展開論	・〈息をする〉のアセスメント／関連図と看護問題の同定	2
		統合科目②：基礎看護技術論Ⅰ	・〈息をする〉の看護技術 安楽な体位／酸素療法、吸引	3
トイレに行く	腰椎圧迫骨折で安静制限がある70歳代女性	統合科目①	・〈トイレに行く（排便・排尿）〉に関する身体の構造と機能、アセスメント方法	6
		統合科目②：看護展開論	・事例を用いた〈トイレに行く〉のアセスメント／関連図と看護問題の同定、目標設定、看護計画立案	3
		統合科目②：基礎看護技術論Ⅰ	・〈トイレに行く〉の看護技術 尿器・便器を使用した排泄援助 排便を促す温電法ケア、浣腸・導尿	4
きれいにする	脳梗塞の既往による左上下肢麻痺があり、肺炎で入院中の70歳代男性	統合科目①	・〈きれいにする（皮膚）〉に関する身体の構造と機能、アセスメント方法	2
		統合科目②：看護展開論	・事例を用いた〈きれいにする〉のアセスメント／関連図と看護問題の同定、目標設定、看護計画立案	3
		統合科目②：基礎看護技術論Ⅰ	・〈きれいにする〉の看護技術 全身清拭・寝衣交換、陰部洗浄、足浴 実技試験	5
流通機構	心筋梗塞でステント留置術を受け、心臓リハビリテーション中の60歳代男性	統合科目①	・〈流通機構（循環）〉のための身体の構造と機能、アセスメント方法、 ・模擬患者を活用したアセスメントの実際	9
眠る	乳房摘出術後、ドレーン流治療が減らず退院が延期され、不眠を訴える70歳代女性	統合科目①	・〈眠る〉に関する身体の構造と機能、アセスメント方法	2

※統合科目①には、形態機能学、形態機能学演習、ヘルスアセスメント方法論が含まれる。

特に〈食べる〉と〈息をする〉では、模擬患者への情報収集を実施し、看護実践のリアリティのあるヘルスアセスメントの方法と看護過程の展開を学んだ。

〈トイレに行く〉〈きれいにする〉の授業の前には、看

護展開論のコマで看護過程の看護問題の同定・優先順位の決定・看護方針・看護目標・看護計画立案の授業とミニ演習を入れた。

したがって、〈トイレに行く〉〈きれいにする〉では、

身体の構造と機能の知識を学んだうえで、アセスメントの方法を学び、事例を用いてアセスメント・関連図・看護問題の同定に加え優先順位の決定・看護方針・看護目標・看護計画立案をグループワークで学ぶ内容とした。

加えて、今年度から看護展開論実習で経験する頻度の高い全身清拭・寝衣交換・陰部洗浄の技術チェックを7月に導入し、実習への準備状態を高める工夫をした。

〈コミュニケーション〉の講義と演習の後には、コミュニケーション実習の病棟実習（5月下旬）を配置し、学内での学びを病棟での実践での学びにつなげる工夫をした。

また、全ての単元での日常生活援助技術の学習後に基礎看護技術実習の病棟実習（6月下旬）を配置し、学内での学びを病棟での実践での学びにつなげる工夫をした。

全ての単元が終了した時点で看護過程に関する疑問点を出し合い、学びを定着できるようにQ&Aを1コマ追加した。

今年度の授業評価の結果はまだ公表されていないが、授業中の学生からのフィードバックでは、「からだの仕組みを学び、その上で患者の状態をアセスメントし、アセスメントした内容から看護問題を見つけ、看護技術を学ぶカリキュラムだったので、学んだ知識が看護実践でどのように役立つのかが実感できた」等の肯定的意見が多くみられた。

IV. 全人的に対象をアセスメントし、看護を展開する力を創る

病者をみるためのアセスメントの枠組みの項目（表1）として、痛みや辛いところはあるか、安全か、1日をどう豊かに過ごすか、これまでどう過ごしてきたか、どこに帰るのかについては、上記の生活の基盤となる生命活動と1日の生活ができるかと共に、患者を全人的に理解するのに重要な項目である。そこで、展開論実習に臨む最後のまとめ学習として統合演習を14コマで構成した。

この統合演習の特徴は、2点挙げられる（図1）。

1点目は、複数の看護問題を抱える事例を用いているため、それまでに学んだ単元の知識と技術を統合し、情報収集からアセスメント、関連図、看護問題の同定、優先順位の決定、看護方針の記述、優先順位1位の看護問題についての目標設定と看護計画立案、実施・評価と看護過程の一連のプロセスを学べるようにしている点である。

2点目は、看護実践のリアリティのある学びを促進する工夫である。模擬患者への看護師の関わり方やヘルスアセスメント方法をシャドーイングし、実際の関わり方の工夫点やヘルスアセスメント方法を考え検討する。その上で、模擬患者に関わり、ヘルスアセスメントを実施

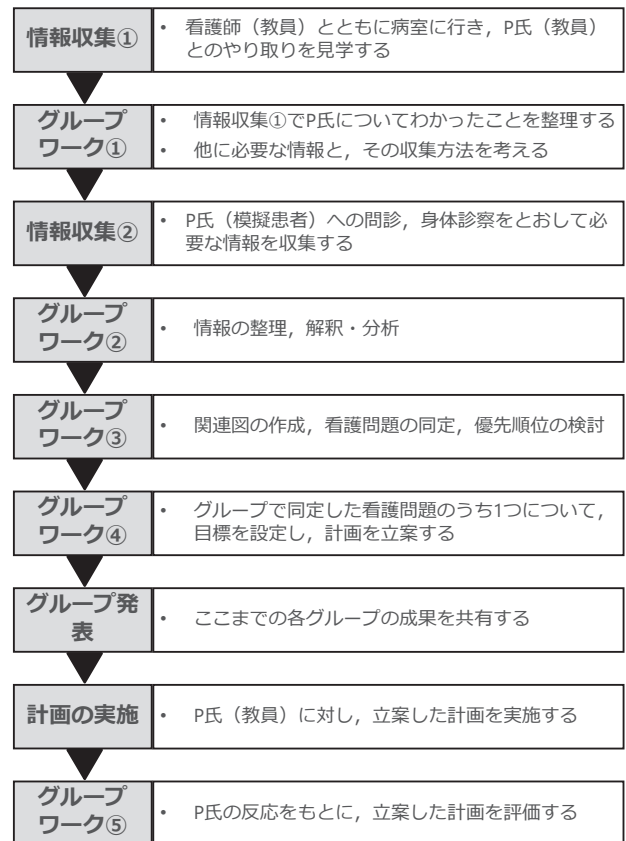


図1 統合演習の流れ

する。更に、そこから得られた情報を基に、アセスメントに繋げ、看護過程の展開をし、看護計画を立案する。最後に、立案した看護計画を模擬患者に実践し、評価をする。

このように、模擬患者に関わりながら看護を展開する学びを通して、全人的に対象を捉えケアをする看護展開論実習に臨む力を創ることを目指し、アクティブ・ラーニングを用いた学習方法で展開した。

授業中の学生からのフィードバックでは、「自分達が計画した看護を実施した時の患者の反応が想定を超えていて、自分たちの思い通りにはケアは進まないことを実感した」「自分たちの都合ではなく、患者の反応に合わせて対応することの難しさと大切さがわかった」「患者からのありがたいに励まされた」等、看護展開論実習に臨むための準備学習としての意義があったのではないかと考える。

V. まとめ

2017年度には、統合科目①（4月～6月）、看護展開論（4日間）、基礎看護技術論Ⅰ（2週間）の集中型であったカリキュラムを2年間かけて修正してきた。

看護実践をイメージし、学びの目標と関連性を理解したうえで、病者をみるためのアセスメントの枠組みを軸に各単元を学び、更に学んだ知識や技術を統合し、対象

を全人的捉え看護を实践する学びに発展させるカリキュラムを創り上げた。

学士編入の3年次前期のカリキュラムは、2年間かけて真に知識と技術を統合できる内容に進化したと考える。詰め込み式の教育から系統的、段階的かつ統合式の教育に変わり、スケジュールもゆるやかになったことも評価できる。

学士編入の最初の4か月間は、基礎看護学の科目19単位を修得するハードな学習であることを踏まえると、知識や技術を習得するために、形態機能学、形態機能学演習、ヘルスアセスメント方法論では、自己学習&オフィスアワーを授業時間として10コマ確保できている。来年度からは、この10コマを看護展開論、基礎看護技術論Ⅰでも共通で使えるようにし、更なる知識と技術の習得に繋げる予定である。

また、基礎看護技術論Ⅱは、治療的看護技術を学ぶ内容である点を踏まえて、2019年度からは3年次後期に移行し、看護専門領域科目と共に学ぶ科目として配置した。

今後も学生の授業評価の声を真摯に受け止め、さらに看護実践力の向上につながる改善点を見だし、常に学生が主体となって学びを深められるカリキュラムを目指して改良を重ねたい。

謝 辞

ご参加いただきました一般財団法人ライフ・プランニング・センターの模擬患者の皆様に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 加藤木真史, 大久保暢子, 斉藤あや. 第3年次学士編入における形態機能学・形態機能学演習・アセスメント方法論の統合. 聖路加国際大学紀要. 2018;4:103-8.
- 2) 縄秀志, 佐居由美, 樋勝彩子ほか. 実践報告: 聖路加国際大学第3年次学士編入制度. 聖路加国際大学紀要. 2018;4:113-6.